

■新教育課程用教科書 「こんな方針で編修しました」

— ビジネス基礎—Foundation of Business—

— 一橋大学教授 片岡 寛 編著 —



この科目は、今回の学習指導要領改訂の目玉として登場した新科目であり、商業科の基礎的科目の中では唯一の原則履修科目と位置づけられています。そこには、従前の商業科における「商業教育」を、新たに「ビジネス教育」へと変革させようという大きなねらいがあります。すなわち「生産・流通・消費という経済の仕組みの中におけるビジネスの諸活動の意義や役割など基礎的な知識と技術を習得させるとともに、経済社会の一員として必要とされる望ましい人間関係、社会性および倫理観など豊かな人間性を身に付けさせ、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる」ことです。

また、既存の科目にはなかった「商業を学ぶ目的や学び方、卒業後の進路」などについての「ガイダンス」を行い、主体的な学習について考えさせるなど「学習の動機付け」を図ることも大きなねらいとなっています。

そこで、本書の編修にあたっては、学習指導要領解説作成協力者の主査を務められた片岡寛先生の陣頭指揮のもと、これら新学習指導要領のねらい・目標が徹底でき、生徒の学習の指針となり、新しいビジネス教育が定着・発展していけることをめざしました。

これらのねらい・目標を実現するために、具体的には、以下のような配慮をしました。

◆ビジネスの世界へようこそ！

商業科へ入学した生徒の視点で学習が展開できるように、商業高校生の主人公と、生徒をビジネスの世界へ案内するナビゲーターの二人のキャラクターを設定しました。そして、図解と事例を中心とした展開でビジネスの世界へと誘導し、ビジネス社会の理解と商業高校で3年間の学習することの動機付けを図れるように配慮した教科書です。「ビジネスってナニ？」がわかるように編修しました。

◆商業の学習ガイダンス

「商業の学習ガイダンス」については「流通ビジネス分野」、「国際経済分野」、「簿記会計分野」、「経営情報分野」の4分野について、その概要を取り上げ、高校生が自ら自分の将来を想像することができるよう工夫しました。「私は、簿記会計分野を学んで、将来は税理士のような仕事について、ビジネスに貢献したい」とか、「経営情報分野を勉強して、情報システムを扱っていきような仕事に就いて、これからの情報化社会の役に立ちたい」というように、生徒が自分の将来を具体的にイメージできたらいいなと考えました。

◆事例をたくさん学ぶ

「ビジネスって、まだ高校生の私には遠い世界」ではありません。自分の高校生としての生活にも、実はとても密接なかかわりがあるということを実感してもらえるように、事例をたくさん集めました。自分が普段接している「こんなこともビジネス」と実感できるように、たくさんの事例を“CASE”というかたちで取り上げてみました。

◆ビジネスの基礎って？

「ビジネスの基礎」とは、「簿記会計に堪能」、「コンピュータに強い」、「ビジネス英会話ができる」でしょうか？ これらもちろん、これからのビジネス社会を生き抜いていくためには必要な要素です。でも、そのもっと手前にある「ビジネスの基礎」は、「豊かな人間性」であり「コミュニケーション能力」だと考えます。国際化・情報化が進むこんにちのビジネス社会を生き抜いていく、そんな力を生徒達に身に付けてもらいたいです。これこそが、私たちが考えたこの教科書の基本的な編修方針です。

■新教育課程用教科書 「こんな方針で編修しました」

●簿記（2種類発行予定）-----実教出版編修部-----

今回の学習指導要領改訂によって、簿記会計分野は「会計活用能力の育成」という観点から、また一方で、国際化・情報化への対応という観点から各科目が再編成されました。また、学校週5日制の実施に伴い、各科目の内容の厳選も行われました。

「簿記」においては、従前の内容から「株式会社の記帳」が科目「会計」へ、「コンピュータを利用した会計処理」が新科目「会計実務」へと移された一方、「簿記の歴史」が加えられました。「基礎・基本の重視」は変わりませんが、従前の「記帳重視」の観点はやや薄まり、代わりに「会計活用能力の育成」が加わってきました。つまり、「会計帳簿や財務諸表を通してビジネスの諸活動を理解する能力を育成する」ことが簿記教育の目標としてはっきりと打ち出されてきました。簿記教育では伝統的に行われてきた「記帳重視」の観点が薄まることは、高等学校における簿記教育が一つの転換期を迎えているのではないのでしょうか。

こういった学習指導要領の改訂を受けて、私たちは、現行に引き続き2種類の教科書を編修しました。一つは全商検定向き、一つは日商検定向きという従来の基本方針は踏襲していきますが、学習指導要領改訂の趣旨でもある「会計活用能力の育成」をめざして、それぞれ次のような基本方針で編修しました。

新簿記

成蹊大学名誉教授 新井 益太郎

青山学院大学名誉教授 稲垣 富士男 編著

◆「簿記リテラシー」コーナーを新設

「会計活用能力の育成」の第1歩として、その章で扱った帳簿などが、現実に実務ではどのように活用され、どのように役立っているかなどを、その都度学習できたら良いのではないかと考えました。各帳簿の記帳技術を覚えるだけでは「活用」はできません。そこで、必要に応じて章末に「簿記リテラシー」というコーナーを設け、生徒に興味・関心を持ってもらえるような解説を試みました。

◆基礎・基本重視、ステップ学習方式

続いて、基礎・基本重視に心がけました。第10章から始まる「取引の記帳」では勘定科目ごとに導入で「基本仕訳」として囲みで明示し、仕訳のパターンが明確にわかるようにしました。

また、学習要素の構成配列については、常に易しいものから難しいものへと段階を追って学習（ステップ学習）できるように配慮して編修しました。その結果、教材の配列が、各種検定試験の難易度ともピッタリ対応できました。それは次の通りです。

- 第1編（簿記の基礎）～第4編（帳簿と伝票）
……………全商3級
- 第5編（決算その2）
……………日商3級
- 第6編 取引の記帳（その2）～最後
……………全商2級以降

◆全商検定試験を意識

現行本の基本方針でもあった「検定試験への対応」は、今後の簿記教育でも大事であると考えています。本書はとくに全商検定を意識して、章末問題や総合問題は出題形式を極力合わせるようにしました。

◆わかりやすさが第一

学習要素の展開にあたり、生徒がつまづかないように、簿記が好きになるようにと、わかりやすさ第一を心がけました。たとえば次のとおりです。

- ① 本文解説にあたっては、勘定体系の流れなど、つねに図解を取り入れました。
- ② 例題の解説や難解な教材の展開にあたっては、特に念入りにイラストや図解を有効に利用するように心がけました。
- ③ 初出の帳簿には吹き出し解説をつけ、どの欄に何を記入し、どんな役目を果たしているのかなどが理解できるようにしました。

◆簿記博士大活躍

現行本でも登場している「簿記博士」のコーナーはさらに充実させました。本文の解説だけでは間違いやすいと思われるところ、つまづきやすい箇所などは「簿記博士のアドバイス」として、本文とは別の方法や発展的な内容は「簿記博士の特別講義」として、わかりやすく解説したつもりです。

■新教育課程用教科書 「こんな方針で編修しました」

高校簿記

早稲田大学名誉教授 新井 清光

早稲田大学教授 加古 宣士 編著

「高校簿記」は次のような基本方針で編修し、「新簿記」とは差別化を図っています。

◆効率的な学習、サイクル学習方式

本書の第一の基本方針は「効率的な学習」です。「本文は簡潔に、すぐ適切な例題で確認」の展開パターンをテンポよく繰り返し、スピーディーに学習が進むように心がけました。

また、取引の記帳と決算を、基礎からレベルを上げながら繰り返す、サイクル学習（決算4サイクル）を採用し、簿記一巡の手続きが効率よく身につくよう配慮しました。

◆日商検定を意識

新井清光先生（故人）・加古宣士先生をはじめ日商簿記検定試験の中心を任う先生方で本書は編修を続けています。たとえば練習問題（章末）などは、日商検定の出題形式に極力合わせるなど、高校の教科書では本書が「日商検定決定版」という自負のもとに、今後も日商検定を意識した編修を続けます。このことは、商業高校の簿記教育における重要な要素の一つと考えています。「日商簿記2級」が生徒たちを大学へ送り出す大きな力となってきているからです。

◆簿記を本当に理解することが会計活用能力につながる

本書では、仕訳などを暗記で覚えるのではなく、きちんと仕組みや理論を理解すること、これがやがて実務での会計活用能力につながると考えて編修しました。また、そのことが、日商簿記検定の2級と1級の間にある大きな壁を取り払うことにもつながると考えています。そのことを実現できるように、たとえば次のような配慮を試んでいます。

- ① 各章のタイトル下には、フローチャートなどで簿記全体の流れの中の今どこにいるかを示し、その章での学習内容や位置付けがわかるようにしました。
- ② 「簿記サポート」というコーナーを設け、「商品って何？ 勘定っていったいなんだろう？」といった素朴な疑問に答えたりしています。

最新情報処理21 Business Computing

情報処理21 Personal Computer

千葉商科大学教授 中沢 興起 編著

今回の学習指導要領の改訂で、従前の「情報処理科目群」は、「経営情報科目群」と名称変更され、また、各科目によりいっそう「情報活用能力」を問われる形で再編成されました。また、普通科で「情報A・B・C」が選択必修科目として登場したこととも関連して、商業科の情報処理関連科目には、「ビジネス」とのつながりが強く求められるようになりました。さらに、「計算事務」がなくなり、その内容が各科目に分散・吸収された役回りを「情報処理」も受け止め、「金融に関する計算」、「証券投資に関する計算」を新科目「情報処理」で扱うことになりました。これらのことを受け、私たちは、次のような基本方針で教科書編修に臨みました。

◆情報処理関連科目に関するとりくみ

→すべての情報処理関連科目を発行します

商業科の経営情報科目群には、平成15年度用として「情報処理」（見本本作成中）、平成16年度用として「ビジネス情報」「プログラミング」（ともに検定提出中）、平成17年度用として「文書デザイン」（編修中、本年10月検定提出予定）の4科目が設定されています。この4科目すべての教科書を発行します。また、情報処理とプログラミングに関しては多様な高校現場の実状を踏まえ、レベルや言語を違えて2種類ずつ発行します。

◆「情報処理」は2種類発行

→学校現場の多様なニーズに応えられるように

新教育課程のもとでも、従来どおり「情報処理」については、2種類の教科書を発行します。従前の「情報処理」では、プログラム言語を取り扱うことになっていたため、BASICとCOBOLといった言語の分類で発行していましたが、今回の学習指導要領改訂で、「情報処理」からはプログラミングの内容が削除されました。しかし、学校現場の多様なニーズに応えられるように、難易度などによる差別化を図ることによって、今後も、「情報処理」は2種類の教科書を発行していきます。これは、各学校からさまざまなご意見を伺った結果、情報処理科など経営情報科目群を中心に履修していく場合と、そうで

■新教育課程用教科書 「こんな方針で編修しました」

ない場合では、同じ履修内容や到達目標とはならないとのご意見を多数いただいたからです。また、同じ内容を履修する場合でも、2冊発行することで選択の幅が増え、先生方のご授業によりマッチした教科書をご提供できるのではないかと考えました。

◆こんな視点で差別化をしました

→難易度とビジネス色

2点発行する教科書の差別化は次のような視点としました。

- ① 表計算ソフトウェアで取り扱う関数の数に差をつけました。さらにわかりやすくいいますと、現行の全商コンピュータ利用技術検定の2級までと1級までといったような区別をしています。
- ② データベースソフトウェアの内容にも差をつけました。データベースは利用まででよいという授業形態と、たとえば情報処理科などで、作成まで踏み込むといった、さまざまな授業形態に対応できるように区別をしました。
- ③ 各学科、各授業形態によって、ビジネス計算にどれだけ踏み込んでいくのかには差が出ると考え、ビジネス色に濃淡をつけました。

また、1点はイメージを促す平易なイラストにとどめ、もう1点は実状に即した図を掲載し、よりいっそう現実の情報化社会を体感できるように配慮しました。

こういった基本方針で「情報処理」2点を編修しましたが、最後に、今回から教科書が大きく変わるという点にふれておきたいと思います。

それは、平成15年度用の「情報処理」教科書は、すべてのページをカラー化（フルカラー）とし、実際にコンピュータを操作する際と同じ画面を教科書でも見ることができるようになったということです。

さらに、アプリケーションソフトの利用については、実際の画面を切り抜いた図を多数掲載し、操作の手順や実行結果の確認の際の便を図りました。

今回の「情報処理」教科書は、新しい内容へのとりくみ、カラー化された豊富な図版など、これまでの教科書と異なる、全く新しい教科書となりました。まもなく見本ができあがります。ぜひ手にとってご検討いただければ幸いです。

Communication For Business 英語実務

トミー 植松・高橋 則雄 編著

今回の学習指導要領の改訂で、従前は「商業経済科目群」の中の「国際経済分野」に位置づけられていた「英語実務」は、新しく「国際経済科目群」として独立し、その最初の科目に位置づけられました。また、この科目には、教育課程審議会からは「実践的な語学力」を求められ、新しい学習指導要領からは「国際交流能力の育成」を求められています。これからの国際社会、グローバル社会を生きぬいていく子供たちを教育していくための教科書として、責任の重大さを痛感するとともに、この科目は「国際経済関連学科」だけが学習していく科目ではないのではないか、これからの商業教育の柱にならなくてはいけないのではないか、という思いから「英語実務」教科書の編修にとりくみました。具体的な方針は以下の通りです。

◆国際化に対応した教科書

主人公が親の海外勤務をきっかけに海外留学する設定にしました。子供たちの視点で、国際化を考えられるように配慮しました。国際経済科・商業科（国際関連コース）・総合学科など、学科を問わず学習してほしいと考えています。

◆楽しく学ぼう

英語の教科書というと「辞書を片手に」と思われがちですが、本書は全く辞書を使わず学習できるように編修しました。主人公になりきって、楽しくビジネス英会話が身につくように工夫しました。

◆ビジネス基礎との連携

旧学習指導要領の「英語実務」から、日本国内での英会話部分が「ビジネス基礎」にすべて移りました。本書は、その「ビジネス基礎」の「国内での英会話」部分を受けついで、海外でのビジネス英会話が継続的に学習できるように配慮しました。

◆国際コミュニケーション能力の育成

導入で「国際化とコミュニケーション」を取り上げました。写真を中心に、主人公たちの会話で親しみやすく展開し、生徒の興味・関心を喚起できるようにしました。

また、現行本で好評だった海外事情などが理解できる、“PERSON TO PERSON”は引き続き今回も

■新教育課程用教科書 「こんな方針で編修しました」

取り扱い，英会話だけでなく文化の背景についても楽しく学べるようにしました。

◆反復練習を重視

現行教科書よりも，PRACTICEやEXERCISEなどの練習問題の量を増やしました。反復練習によって英会話がより身につくようにしました。

◆情報化時代の国際ビジネス

近年のIT化にともない，個人輸入のやりとりは

従来のレター・ペーパーではなく，すべてe-mailの形式で掲載しました。

「商業高校出身者はビジネス会話が強い」，「普通高校出身者と比べて数段コミュニケーション能力にすぐれている」という時代の到来を夢見てこの教科書の編修にとりくみました。まもなく見本本ができます。よろしくお願いいたします。

平成15年度用 じっきょうの商業科教科書

新教育課程用

ビジネス基礎

最新情報処理21
Business Computing

新簿記

情報処理21
Personal Computer

高校簿記

Communication For Business
英語実務

現行教育課程用

商業579 流通経済 新訂版

商業612 最新プログラミング 新訂版

商業580 高校簿記 新訂版

商業618 情報管理 新訂版

商業610 高校会計 新訂版

商業587 文書処理 新訂版

商業⁵⁸¹₅₈₂ 新簿記 [1]・[2] 新訂版

商業514 Communication For Business
英語実務

商業611 新会計 新訂版

商業607 マーケティング 新訂版

商業609 工業簿記 新訂版

商業608 商業経済 新訂版

商業⁵⁸⁵₅₈₆ 計算事務 上・下 新訂版

商業564 商品

PERSONAL COMPUTER

商業584 情報処理 新訂版

商業617 経営 新訂版

商業583 最新情報処理 新訂版

商業619 商業法規 新訂版

2002年 2月15日 印刷

© 編修・発行

 実教出版株式会社

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5

2002年 2月20日 発行

代 表 者 本 郷 充

TEL. 03-3238-7777

定 価 210円

<http://www.jikkyo.co.jp/>

(本体 200円)